

暮らしのかわらばん

一期一会

9月20日より26日までが
(9月23日秋分の日が中日)
お彼岸です!

- お彼岸のいわれ
- すこしコマーシャル

平成23年
お彼岸のいわれ号

あなたの街の小さな小さな仏壇や

築山 佛心堂

☎0745-23-8911

(高田川築山信号北角)

(店舗まえに広い駐車スペースあります)

時 歳 赤蜻蛉 筑波に雲も なかりけり (子規)

《お彼岸のいわれ!》

【暑さ寒さも彼岸まで】

といわれるように季節の代名詞のようになっていますが、彼岸会は「到彼岸」の意味とされています。

仏教では西方十万億土に浄土があると教えています。現在私達が住んでいます迷妄の世界、すなわち苦しみ悩みの世界は「此岸しがん」であって、仏菩薩の悟りの世界であり光り輝く理想郷「彼岸ひがん」に渡ることを目的とするのが「彼岸会」の意味なのです。

しかし簡単に此岸から彼岸には行けません。光り輝く理想郷に行くためには六つの行が必要とされています。

- ①布施 財を施すこと。
(法布) 真理を教えること。
(無畏怖) 恐怖を取りのぞき安心を与えること。
- ②持戒 戒律やきまりを守り節度ある生き方をすること。
- ③忍辱 苦しさに耐えること。
- ④精進 常に仏道を修めるための精進努力をする。
- ⑤禪定 心を常に平静に保させること。
- ⑥智慧 真理を見抜く力を付け仏道に目覚めること。

以上の行が六波羅蜜といい、彼岸会は悟りの世界に一步踏み出すための法会なのです。春分・秋分に行なわれるこの「会」は、仏教行事として広く知られる以前は、農耕民族である日本に自然発生的に根付いた文化とも考えられます。

近畿地方には「日の伴」とか「日迎え日送り」を行事とする地域文化が残っています。

「日の伴・日迎え日送り」とは朝日の出る東の方向にある神社や仏閣にお参りし、日中は南の方向にある神社・仏閣にお参りし五穀豊穡を祈念し、節目とし先祖の霊をお祀するという原始的な太陽崇拜が基調となっていてと言われていますし、彼岸会と「太陽と農作」は一体となっている事が考えられます。

お彼岸の頃には太陽が真西に沈み、沈む方向に向かいお念仏すれば浄土に往生できるとされています。しかし仏教誕生の地であるインドや中国には「彼岸会」という行事は無いと聞いていますのでこの行事は我が国独自の文化であり仏教行事かも知れません。聖徳太子が企画構成したという説もあります。

先にのべました「六波羅蜜」の行は、日々の生活に追われている私達にはできませんが、お彼岸の前にはお仏壇をお掃除し、仏花を飾り彼岸の間はご先祖様や故人の好物・果物・だんご・おはぎ等を毎日お供えしましょう。

またお寺参りやお墓参りをしてお掃除し、亡き人を偲び自分の今ある事に感謝し、家族の平和をお願いする事を習わしとしています。

春・秋の中日を挟んだ前後三日間を設け、集中的に実行に導こうとするのが「彼岸」のいわれです。

二 お墓参りのお道具・線香等は 築山 佛心堂へ! 二

